

第6学年2組 社会科授業案

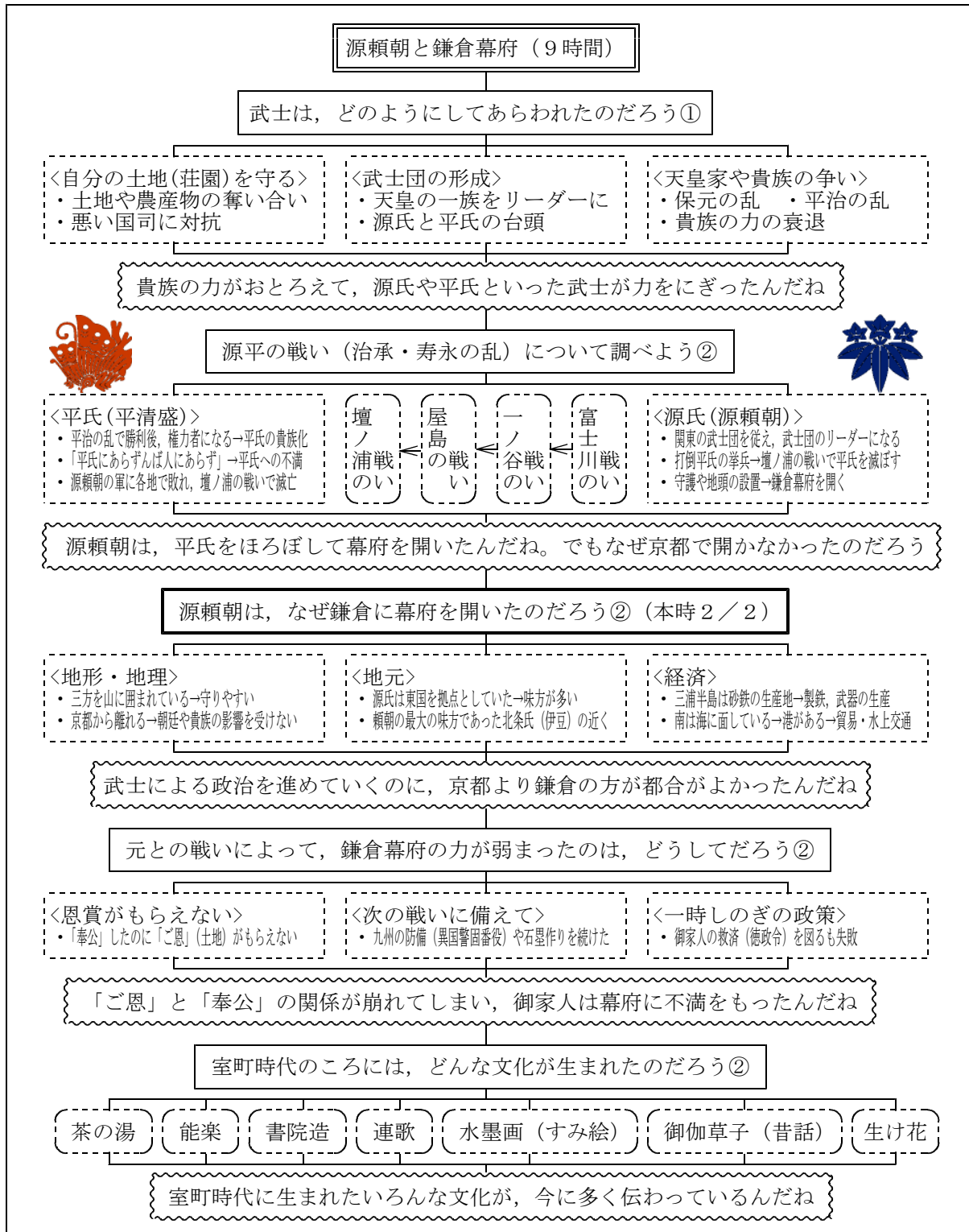
授業者 上田 康司

1 単元 源頼朝と鎌倉幕府

2 目標

- (1) 武士による政治の始まりや室町文化に興味をもち、学習問題を意欲的に追究しようとする。
(意欲・関心・態度)
- (2) 武士による政治が始まったころの世の中の様子や、室町文化が今日の生活文化に直結する要素をもつことを考えることができる。
(思考・判断)
- (3) 各種の資料を効果的に活用して、源平の戦いや武士のくらし、鎌倉幕府の始まり、元との戦い、室町文化について調べ、調べたことをわかりやすくまとめることができる。
(技能・表現)
- (4) 武士による政治の始まりや、幕府が全国的に力をもってきたこと、武士や民衆の中から室町文化が生まれたことを理解することができる。
(知識・理解)

3 単元構想 (9時間完了 本時5/9)



4 本時の授業

(1) 目 標

- ・源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を、さまざまな資料や友だちの発表をもとに考えることができる。
(思考・判断)

(2) 指導にあたって

本学級の子どもたちの多くは、歴史の授業に興味をもち始め、教科書に出てくる人物や出来事について調べたり、まとめたりする活動が好きである。古墳時代の学習では、「古墳って何だろう」という学習課題に対して、古墳の大きさや形、埋葬されている人物、副葬品など、多くのことを調べ、みんなでまとめることができた。

本単元は、武士がどのように生まれ、政治の担い手になっていったのか、この後の単元に出てくる信長、秀吉、家康といった、なじみのある人物との出会いを前に、武士の起こりから武士による政治がどのように形作られていったのかを探っていくため、子どもたちにとっても興味深いと思われる。天皇や貴族を中心とした世の中の学習を終え、新しく政治の担い手と成りゆく武士たちが、どのようにして力をつけていったのか、武士の願いに迫っていくことで、時代の変化を感じ取りやすい単元であると思われる。また、同時にそのころの農民や町人など民衆の暮らしにも目を向けさせ、民衆が自分たちの暮らしや文化をどのように発展させてきたかなどを考えさせたい。

本時では「源頼朝は、なぜ鎌倉に幕府を開いたのだろうか」という学習課題について、鎌倉の地形や地盤、頼朝と家来との関係、平氏政権（平清盛）との比較など、さまざまな歴史資料をもとに考えることを目標とする。歴史資料をていねいに読み取ったことをもとに、頼朝が鎌倉に幕府をつくった理由を話し合うことで、一つの歴史事実を多面的に見る力を養いたい。さらに、友だちと共感したり、意見をたかかわせたりすることで、学びを深めていきたい。

(3) 準 備 教師：源頼朝の肖像画 鎌倉の地図 源平の争いの年表

児童：前時までに配布された資料 自分の考えを記入したワークシート

(4) 展 開

